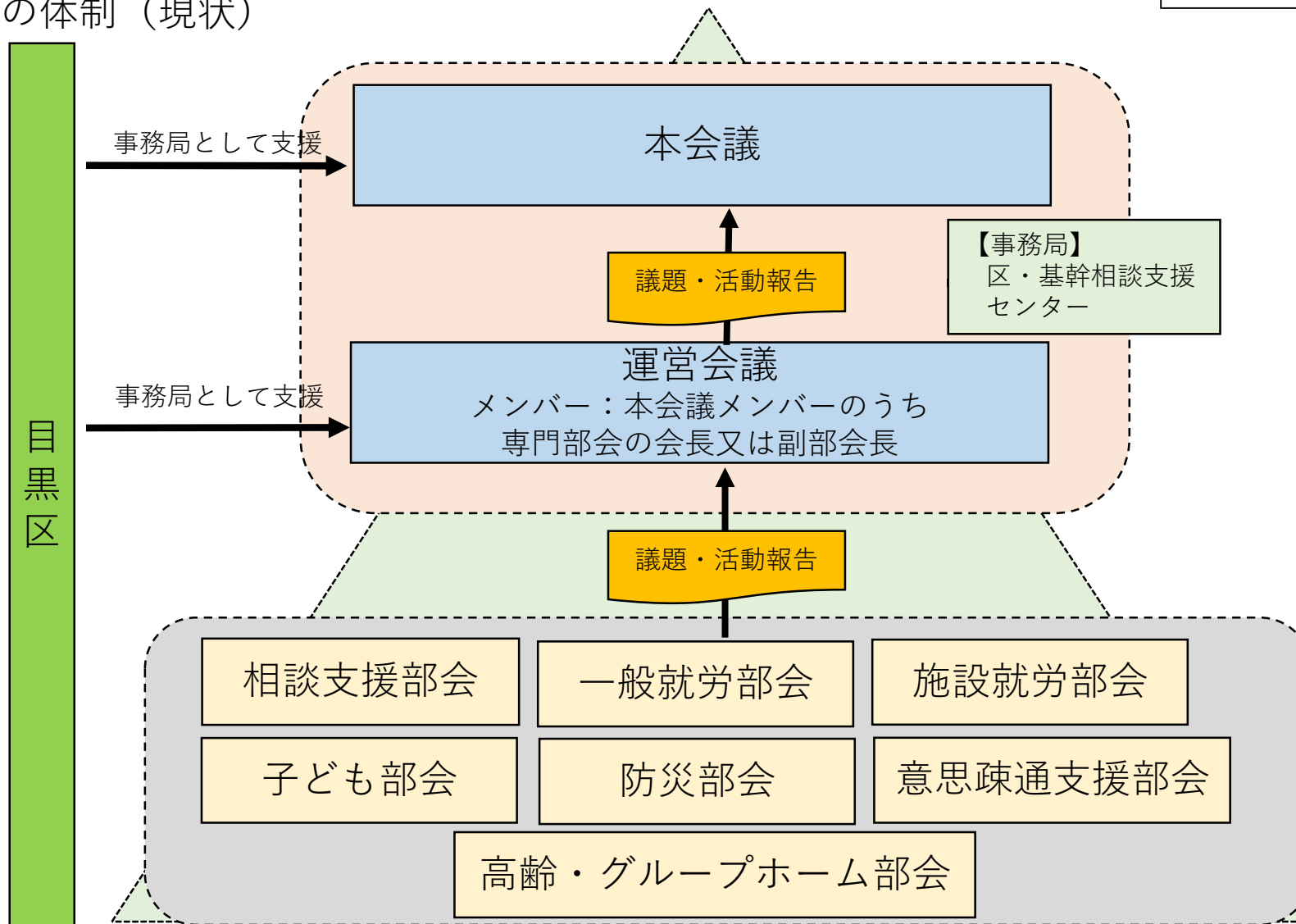
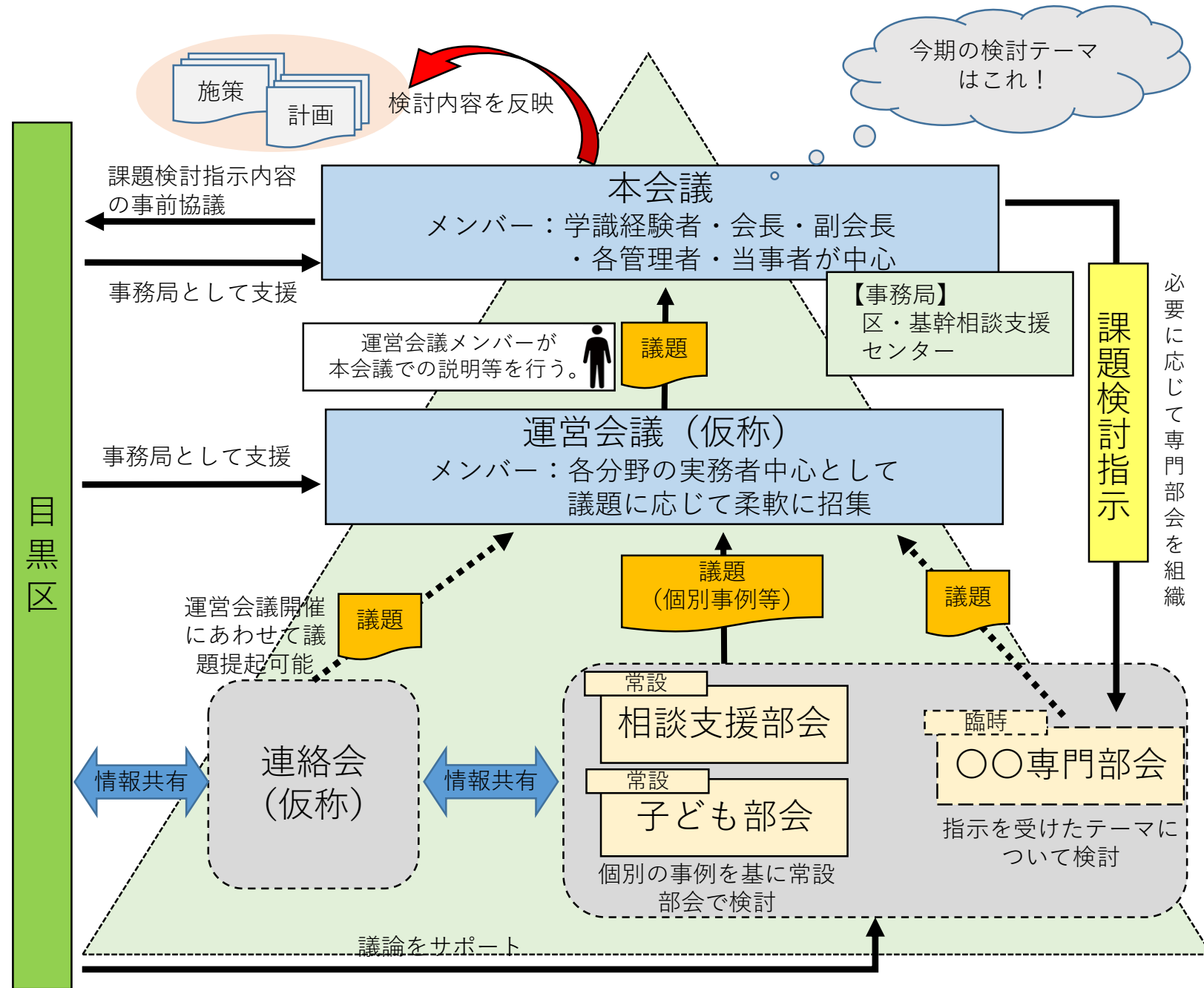


自立支援協議会の体制（現状）

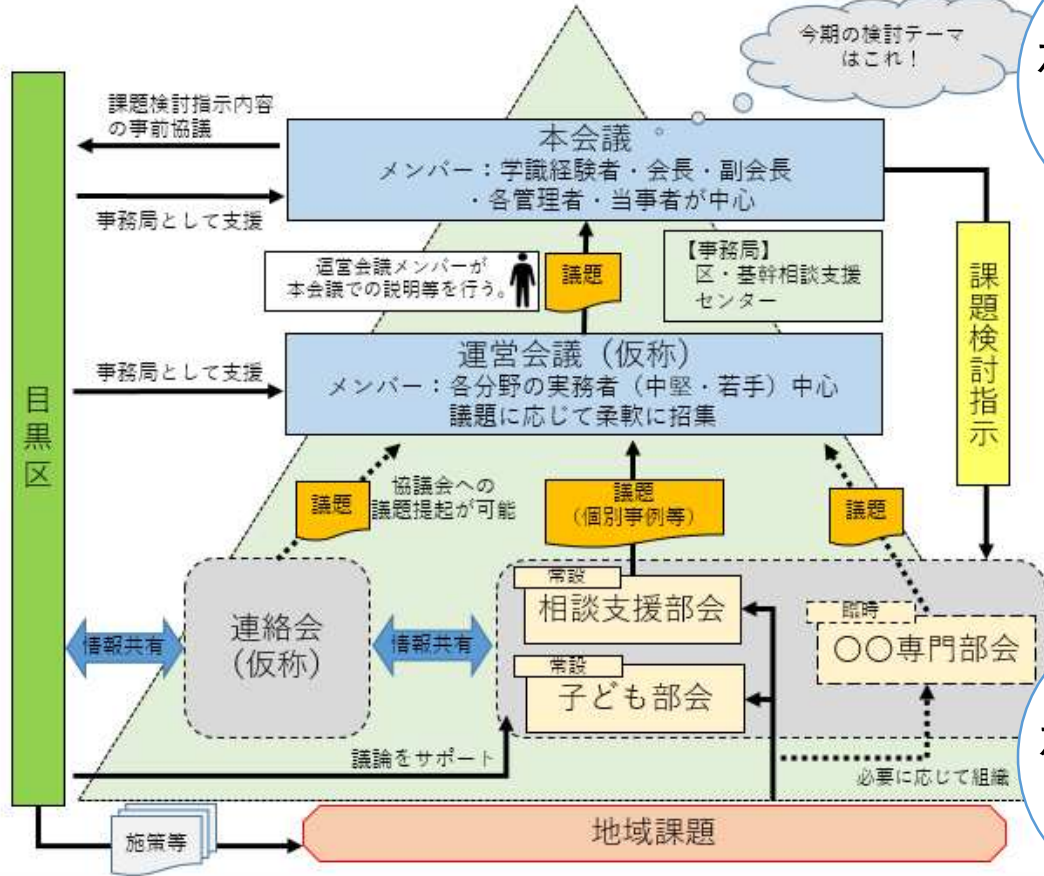


自立支援協議会の体制見直し（たたき台）



- 本会議**
 - ・管理者レベルを中心に、障害当事者（可能であればご本人）や教育機関等で構成
 - ・報告された議事内容の共有や承認を主な役割とする。
- 運営会議（仮称）**
 - ・実務者レベルを中心に構成（本会議メンバーは原則参加しない。）
 - ・個別支援事例に関する情報・課題共有や専門部会の検討状況の報告などを踏まえた協議を行い、本会議に提案する内容を決める。
 - ・次世代の地域福祉を担う人材育成の場とする。
- 専門部会**
 - ・メンバーは検討する課題に応じ、実務者レベルを中心に構成
 - ・協議会として検討すべき課題を議題として提起する。
 - ・本会議から検討の指示が出された課題について検討し、当該検討の状況を運営会議に報告する。
- 連絡会（仮称）**
 - ・同種の事業者、障害当事者等で構成
 - ・主に参加者間での情報共有を行うが、基本的に本会議や運営会議に参加しない。ただし、分野を超えて検討すべき課題等が生じた場合には、運営会議に議題を提起し報告することができる。
 - ・協議会として検討すべき課題が生じた場合は、原則として必要なメンバーの追加等をしたうえで、専門部会として改めて組織し、別途課題を検討する。ただし、連絡会としての議題の提起も可能とする。

自立支援協議会の体制見直し（たたき台）



ポイント
①

本会議と運営会議のメンバーの切り分け

ポイント
②

専門部会の再構築

ポイント
③

目黒区の関わり方

ポイント ①

本会議と運営会議のメンバーの切り分けについて

ポイント①の内容

【本会議】

- ・当事者委員を含めた委員構成とする。
- ・学識経験者、障害当事者等による多角的な意見を踏まえ、協議会としての今後の方向性を決定していく承認機関とする。

【運営会議（仮称）】

- ・実務担当者を中心とし、若手・中堅の職員による意見交換の場とする。
- ・メンバーは固定化せず課題に応じた関係者から柔軟に招集する
- ・課題提起が行われた際、課題提起をした中心メンバーが本会議での説明を行う。

～専門部会からの主な意見～

- これまでの協議会において報告等は全て部会長であったため、若手や中堅の職員に当事者意識を持ってもらうためにも、運営会議の場において、議題を提起した本人が参加するのは良いと思う。
- 運営会議のメンバーが固定的だと議論が進みにくいのでは。しかし、課題解決は長期にわたるため、1年程度は固定メンバーになるのでは。
- 運営会議にどのように人を集めるか、どのような分野の人を集めるか。
- 運営会議をどこが中心にまわしていくのか。
- 若手・中堅の職員の参加には事業所自体の意識を変えていく必要がある。

ポイント ②

専門部会の再構築について

ポイント②の内容

・見直し後は、常設の部会と臨時の部会を設け、コンパクト化する。

（主に地域課題の抽出（個別事例）の中心となる相談支援部会と子ども部会が常設、本会議が検討テーマとして設定した課題を検討する部会が臨時）

・連絡会について

主に情報共有等をメインとして、同種の事業所や障害当事者等の集まりとして柔軟な活動を行う。必要に応じて協議会にも課題提起を行う。

～専門部会からの主な意見～

●これまでは本会議スケジュールに合わせて部会の活動を行う必要があったが、連絡会に移行後は、より柔軟に活動がしやすくなる。

●連絡会として専門部会と別にするのではなく、専門部会同士の連絡会を設ける方が好ましいのでは。

●臨時の専門部会の設置について、課題が提起されすぎて決められなくなるのではないかと。

●部会のメンバーはどのように決めるか。区も一緒に考えながら選んでいくのがよいのでは。

●常設部会については、ルールの下運営が行われるよう、ある程度形式的に組織すべきではないかと。

ポイント
③

目黒区の関わり方について

ポイント③の内容

- ・課題を運営会議（仮称）、本会議へと上げていくにあたり、区としても議論をサポートしていくため、部会に積極的に参加をしていく
- ・現行の7部会に区として参加していくことは人員等の関係で困難であるため、相談支援部会及び子ども部会を含め3部会程度で組織していきたい。

～専門部会からの主な意見～

- 運営会議の参加メンバーの選出について、区もサポートしてほしい。
- 部会のポイントとなる会に参加し、施策とするためのサポートをしてほしい。
- 区のケースワーカーは様々な事業所から報告や相談を受けていると思われるため、必要に応じて部会に参加してもらうことで施策につなげていければいい。
- 協議会に参加するメリットをアピールしていくべき。

その他意見

本会議・運営会議の役割が変わるのであれば、議論を積み重ねていく運営会議の開催回数を増やしていく必要があるのではないか。

運営会議にいきなり若手・中堅の職員が参加しても上手く議論に入っていけない可能性もある。ベテランと一緒に参加するなどのサポートも必要。

運営会議の参加者を流動的にした場合、回によって運営方法が統一されない可能性があるため、個別事例の検討の流れや方法をしっかりと固めておく必要がある。

協議会に参加する意義を感じていない事業者がいることも参加者が増えない要因ではないか。協議会の意義や参加するメリットをわかりやすく伝えていくことも必要ではないか。

参加者がそれぞれの立場だけで区に要望・要求するような場ではなく、課題解決に向け各々ができることを議論をする場になってほしい。

部会の中で解決せず課題として残りがちなテーマについて、複数の視点から意見をもらえるような場が望ましい。

主な論点についての考え方

本会議・運営会議（仮称）について

①本会議のメンバーをどのように集めるのか

→現在の本会議と同様に、各分野から網羅的にご参加いただきたいため、専門部会、連絡会及び障害者団体を中心に区から推薦を依頼する。

②運営会議メンバー（中堅や若手）をどのように集めるのか

→専門部会からご選出いただく。また、協議する課題に関連する分野のかたにご参加いただきたいため、連絡会を中心にメンバーの選出にご協力いただきたい。

③事業所の協力をどのように得るか

→・協議会の意義や参加するメリットについてPRを継続的に行っていく（今後、協議会が検討して得た結果や、結び付いた施策等についてHP、区報等により広くPRしていく。）。
・運営会議の参加者に対して報酬の支払いを検討する（本会議はこれまでどおりとする。）。

④運営会議（仮称）をどこが中心となって回していくのか

→事務局（区・基幹相談支援センター）が中心となる。
そのために事務局は専門部会にも参加し、議論等をサポートしていく。基幹相談支援センターについては、相談支援部会の事務局も兼ねサポートを行う。

専門部会・連絡会について

①現在の7部会をどのように専門部会・連絡会に分けるのか

- ・特定の課題について検討し任期中に結論を出す組織を検討部会と位置付ける。
- ・相談支援部会及び子ども部会を除く5部会について・・・

《案1》

現時点で専門部会として検討していく課題があるかを各部会で検討いただき、課題がある場合には部会とする。ただし、複数部会から複数の課題があがった場合には、その中から協議会として優先するものを決定する。

《案2》

まずは、相談支援部会及び子ども部会のみでスタートし、個別事例等を踏まえた協議等のなかで、専門部会として組織して検討すべき課題が発生した段階で専門部会を組織する。

②専門部会（臨時）のメンバーをどのように集めるのか

- 協議する課題に関連する分野の方にご参加いただきたいため、相談支援部会、子ども部会及び連絡会を中心にメンバーの選出にご協力いただきたい。

③各専門部会や連絡会がお互いの活動などを理解・共有する場が必要ではないか

- 「交流会のような新たな会を設ける」、「連絡会はオープンな組織として誰でも参加できるようなものとし、連絡会の活動等については、区もPRをして各事業所へ周知する」などご意見いただきたい。

今後について

①今後どのように見直しの中身を詰めていくのか

- ➡ ・大枠は現行のたたき台をベースに、まずはできるところから詳細を検討、試行的な取り組みを開始し、課題点を見つけて修正していくことで最終的な形を考えていきたい。

 - ・相談支援部会及び子ども部会には個別事例等の議題提起方法等について個別に相談をさせていただき、実際に関係者を集めた運営会議（仮称）のプレ開催、協議、本会議への報告までを令和6年度末までに数回行い、本格実施までに運用の課題整理、見直し等を行う。

 - ・相談支援部会及び子ども部会以外の部会については体制の見直しに向けて
 - ① 部会として特定の課題を検討していくか
 - ② 連絡会（仮称）として活動を進めていくか
 - ③ たたき台の体制以外に希望する活動形態があるか
- についてご検討いただき、次回の運営会議（令和6年2月16日）を目途にご意見をいただきたい。
※必要があれば事務局が各部会へ参加させていただき、内容のご説明等をいたします。